

安全データシート

作成日 1995年 9月 1日 (第1版)

改訂日 2022年 10月 5日 (第3版)

1. 化学品及び会社情報

製品名称 氷酢酸
推奨用途 水垢落としや、トイレの消臭対策、毎日のお掃除に
会社名 健栄製薬株式会社
住所 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
担当部門 学術情報部
電話番号 06-6231-5822
FAX 番号 06-6204-0750
連絡先 健栄製薬株式会社 学術情報部

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

【物理化学的危険性】

引火性液体 : 区分3

【健康に対する有害性】

急性毒性 (経皮) : 区分4

皮膚腐食性/刺激性 : 区分1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分1

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分1 (血液、呼吸器系)

【環境有害性】

水生環境有害性 短期(急性) : 区分3

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、「区分に該当しない」又は「分類できない」に該当する。

GHSラベル要素

【絵表示又はシンボル】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

引火性液体及び蒸気
皮膚に接触すると有害
重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷
重篤な眼の損傷
臓器の障害 (血液、呼吸器系)
水生生物に有害

【注意書き】**【安全対策】**

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地しアースを取ること。
 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／その他機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する措置を講ずること。
 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 環境への放出を避けること。

【応急措置】

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
 気分が悪いときは医師に連絡すること。
 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
 火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を地方／国の規制に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：化学物質

成分名	CAS 登録番号	含有量	化審法番号
酢酸	64-19-7	99.0%以上	2-688

注記：この値は製品規格値ではありません。

GHS 分類に寄与する成分：安衛法「表示すべき有害物」該当成分
 酢酸
 安衛法「通知すべき有害物」該当成分
 酢酸
 腐食性液体
 酢酸

4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。 皮膚に付着した場合は多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合は医師の診察／手当てを受けること。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は医師の診察／手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	: 吸入、経口摂取したとき；咽頭痛、咳、灼熱感、頭痛、めまい、息切れ、息苦しさ、腹痛、嘔吐、ショック／虚脱 皮膚に触れた、眼に入ったとき；痛み、発赤、水疱、目の充血、重度の熱傷、視力喪失
医師に対する特別な注意事項	: 肺水腫の症状は 2 時間以上経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。

5. 火災時の措置

【消火剤】

適切な消火剤	: 火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。
使ってはならない消火剤	: 棒状注水

【特有の危険有害性】

特有の危険有害性	: 加熱すると容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、有毒及び／又は腐食性のガスを発生するおそれがある。消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。
----------	---

【消火を行う者への勧告】

特有の消火方法	: 関係者以外は安全な場所に退去させる。 霧状水により容器を冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	: 防火服又は防災服を着用すること。 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。 消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 関係者以外は近づけない。漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低 20 分間洗浄する。回収が終わるまで充分な換気を行う。 適切な保護具を着用する。密閉された場所に入る前に換気する。
環境に対する注意事項	: 下水溝に流れ込むと火災・爆発の危険性がある。 屋内、屋外又は下水溝で蒸気爆発を起こす危険がある。 上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。 清浄な帯電防止工具を用いて吸収したものを集める。 漏洩物を取り扱うとき用いる全ての設備は接地する。
二次災害の防止策	: 漏出物を回収すること。危険でなければ漏れを止める。 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

- 技術的対策 : (取扱者のばく露防止)
 ミスト、蒸気、スプレーを吸入してはならない。
 (火災・爆発の防止)
 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 容器を接地しアースをとること。
 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／その他機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する措置を講ずること。
- 局所排気・全体換気 : 排気／換気設備を設ける。
- 安全取扱い注意事項 : 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
 指定された個人保護具を使用すること。
 取扱中は飲食、喫煙をしてはならない。
- 接触回避 : 強酸、強塩基、強酸化性物質との接触を避けること。
- 衛生対策 : 取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。
 この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

- 安全な保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。
 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
 施錠して保管すること。
- 安全な容器包装材料 : ガラス瓶

8. ばく露防止及び保護措置

【管理指標】

- 管理濃度 : データなし
- 許容濃度 : 日本産衛学会(1978) 10ppm; 25mg/m³
 ACGIH(2003) TWA: 10ppm;
 STEL: 15ppm (上気道及び眼刺激、肺機能)
 OSHA-PEL TWA: 10ppm, 25mg/m³
 NIOSH-REL TWA: 10ppm; STEL: 15ppm

【ばく露防止】

- 設備対策 : 適切な換気のある場所で取扱う。洗眼設備を設ける。手洗い／洗顔設備を設ける。
- 保護具 : (呼吸用保護具)
 呼吸用保護具を着用すること。
 空気呼吸器 (SCBA) を着用する。
 (手の保護具)
 保護手袋を着用する。推奨材質：ブチルゴム
 手袋／個人保護具メーカーに適切な材料の選択について問合せる。
 (眼、顔面の保護具)
 化学用品用ゴーグルを着用する。
 保護眼鏡／顔面保護具を着用する。
 (皮膚及び身体の保護具)
 繰返し又は長時間取扱いの場合、耐浸透性の保護衣とブーツを着用する。
-

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色透明
臭い	: 酢酸臭、高濃度では刺激臭
融点/凝固点	: 16.6°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 118°C
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限界	: 下限 5.4vol%, 上限 16.0vol%
引火点	: 41.0°C
自然発火点	: 427°C
分解温度	: データなし
pH	: 2.4(1.0mol/L)、2.9(0.1mol/L)、3.4(0.01mol/L)
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水に任意の割合で溶解(20°C) アルコール、グリセリン、エーテルなどの有機溶剤に可溶
n-オクタノール/水分配係数	: log Pow=-0.17
蒸気圧	: 1.52kPa(20°C)
密度及び/又は相対密度	: 1.049g/cm ³ (20°C)
相対ガス密度(空気=1)	: 2.07
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の取扱い条件においては安定。
化学的安定性	: 寒冷時には凝固することがある。引火性。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。強塩基、強酸と激しく反応する。ある種のプラスチック(例;塩化ビニル)、ゴム(例;天然ゴム)、被覆剤を侵す。
避けるべき条件	: 混触危険物質との接触。裸火、加熱、火花。
混触危険物質	: 強酸、強塩基、強酸化性物質
危険有害な分解生成物	: 炭素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット LD50=3310 mg/kg (PATTY (5th, 2001), et al)
急性毒性(経皮)	: ウサギ LD50=1060 mg/kg (PATTY (5th, 2001))
急性毒性(吸入:蒸気)	: ラット LCLo=16000 ppm (PATTY (5th, 2001))
皮膚腐食性/刺激性	: ウサギ/モルモット 重度の熱傷 (PATTY (5th, 2001), et al)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ウサギ 永続的角膜損傷 (IUCLID (2000)) ヒト 角膜混濁や虹彩炎 (PATTY (5th, 2001))
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: in vivo データなし 復帰突然変異原性試験(エームス試験);陰性 (PATTY (5th, 2001)) 染色体異常試験;陰性 (CHO細胞; PATTY (5th, 2001))
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし

特定標的臓器毒性

単回ばく露 : [区分1]
血液、呼吸器系 (ACGIH (2004))

反復ばく露 : データなし

誤えん有害性 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期 (急性) : 甲殻類 (オオミジンコ) EC50=65 mg/L/48hr (Aquire, 2010)

水生環境有害性 長期 (慢性) : データなし

残留性・分解性 : 急速分解性あり (BODによる分解度; 74% (既存点検))

生体蓄積性 : $\log Pow = -0.17$ (PHYSPROP DB, 2009)

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

【化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報】

廃棄物の処理方法 : 環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の処理業者に依頼する。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切に処分する。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

【国際規制】

国連番号、国連分類

国連番号 : 2789

品名 : 氷酢酸又は酢酸溶液、濃度が80質量%を超えるもの

国連分類 : 8

容器等級 : II

指針番号 : 132

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号 : 2789

正式輸送名 : 氷酢酸又は酢酸溶液、濃度が80質量%を超えるもの

分類または区分 : 8

容器等級 : II

IATA 航空危険物規則書

国連番号 : 2789

正式輸送名 : 氷酢酸又は酢酸溶液、濃度が80質量%を超えるもの

分類または区分 : 8

危険性ラベル : Corrosive & Flamm. liquid

容器等級 : II

環境有害性

MARPOL 条約附属書Ⅲ—個品有害物質による汚染防止

海洋汚染物質（該当／非該当）：非該当

バルク輸送における MARPOL 条約附属書Ⅱ：有害液体物質（Z 類）

改訂有害液体物質及び IBC コード 酢酸

【国内規制がある場合の規制情報】

船舶安全法：腐食性物質 分類 8

航空法：腐食性物質 分類 8

15. 適用法令

【当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則／法令】

労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 名称表示危険／有害物 酢酸 名称通知危険／有害物 酢酸 腐食性液体（規則第 326 条） 酢酸
化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない
毒物及び劇物取締法	: 該当しない
消防法	: 第 4 類 引火性液体 第 2 石油類 水溶性液体 危険等級 III

16. その他の情報

【参考文献】

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (6th ed., 2015), UN
 Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 20th edit., 2017 UN
 IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)
 IATA 航空危険物規則書 第 62 版 (2021 年)
 Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (Table 3 ECN06182012)
 2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
 2020 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
 JIS Z 7253 : 2019
 JIS Z 7252 : 2019
 2021 許容濃度等の勧告（日本産業衛生学会）
 Supplier's data/information
 NITE 化学物質総合情報提供システム "NITE-CHRIP"
 (https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop)

【責任の限定について】

本記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特殊な取扱いの場合には用途に適した安全対策を実施の上でご利用下さい。記載内容は情報提供であって保証をなすものではありません。